

## 学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 大垣北高等学校 学校運営協議会（第3回）
- 2 開催日時 令和5年2月3日（金）14:20～15:40
- 3 開催場所 大垣北高等学校会議室  
開催にあたり、本校生徒の発表を実施した。
- 4 参加者

会 長	竹内 治彦	岐阜協立大学学長
副会長	兒玉 榮一	本校同窓会長
委 員	安藤 光男	大垣国際交流協会常務理事
	伊藤三枝子	清流の国ぎふ女性防災士会会長
	種田千佳子	(株)種田石油店代表取締役社長
	田村 弘司	中部学院大学前事務局長兼特任教授
	堤 俊彦	大垣市体育連盟会長（欠席）
	三浦 陽子	大垣市男女共同参画推進室長（欠席）
	安田 真樹	本校育友会長
	山田 治美	大垣市立赤坂中学校校長（欠席）
学 校 側	鈴木 彰	校長
	橋 博	教頭
	服部久美子	教頭
	村山 寛和	事務部長
	土肥 義史	教務主任
	松野 智博	進路指導主事（欠席）
	田中 卓哉	生徒指導主事

### 5 会議の概要

#### (1) 今年度の取組についての反省及び次年度に向けての提言

##### ・令和4年度自己評価説明

意見 1：メンタルに不調を抱えている人が出るのは、企業も同じである。心を吐き出させるのは大変で、企業は産業医と相談し解決を図っている。学校ではそのような第三者との相談システムはあるか。

⇒月1回スクールカウンセラーの派遣がある。それだけで足りない場合は、スペシャルサポート事業を頼むことができる。月に1回、心のアンケートを行い、心身不調やカウンセリング希望を確認して個別に対応し、カウンセリング日程を設定している。さらに、専門家ではないがスクール相談員や養護教諭が相談に対応している。

意見 2：この自己評価・学校関係者評価の記載はなかなか難しいものがある。計量的なようで計量的ではない。評価基準を統一した対応にするとよい。

意見 3：時間外での学習指導（土曜特別講座）は、どれくらいやっているか。また、生徒のニーズに関して、実数的にどれぐらいの生徒が登録しているのか。

⇒年間の回数が1年生は10回程度、次に3年生が10数回、2年生が最も多い。1回あたりは、3年生は4コマ、1、2年生は3コマで、1講座100分である。講座の時間は100分であるが、準備や処理の時間もかかる。講座については手当てを出している。また、登録者数は教科によって差はあるが、少ない教科で30人、40人程である。

意見 4：土曜特別講座は1日中受けているのか。

⇒3年生ですべての講座をとれば1日中になるが、教科を選んで受講すればその時間だけになる。

校長：女性の活躍と言われているが、高校の時に支援できるようなことがあればご教示願いたい。

意見 5：私が参加している地域防災の会議では、どうやって女性の意見を聞くかということが課題になっているのだが、女性の中にも3歩下がるという意識があり自分の意見をはっきり言えない女性の存在や、女性の意見に対して議論にならないことが多い。学校では、女性の意見を聞く態度や意見を言う女性を育ててほしい。

意見 6：1985年に男女雇用機会均等法が制定された。翌年、女子高校の1年生だった私は卒業生の講話を聞く機会があり、講師の中には専業主婦もいて、働く女性だけが大事なのではなくどのような生き方でもよい、いろいろな選択肢を持ってよいという価値観を知る機会を学校が用意してくれてよかった。

意見 7：来年度に向けての改善という視点で、タブレット端末をより効果的に活用するため生徒が現在持っているタブレット端末の使用場面や、使用ルールは何か。

⇒授業で一斉に使う場合では、教員が提示する資料の共有や各生徒が作ったパワーポイントを持ち寄って組み合わせてグループ発表することがある。使用ルールでは、取り扱いに気を付けることや、充電は家ですること、持ち帰ること、個人情報の扱いに注意することなどである。

意見 8：家庭で使うのはどのような場合があるか。

⇒テストの解説を確認することや、各種情報や案内を見ることができる。

意見 9：教員の働き方改革について、改善点と課題は何か。

⇒8の付く日や水曜の定時での退勤など、メリハリはついてきている。しかし、部活動や受験指導や教材研究などの時間は必要で、その面では改善できていない。しかし、やりがいにつながる面もあるので難しい。教員も生徒も一生懸命やるのが北高らしさである。楽しむ教員を生徒に見せるのも、将来教員になりたいと思う生徒を作るためにも必要である。

意見 10：中学校では部活動が外部指導員に移行という話題があるが、高校ではどのような状況であるか。

⇒本校では、今は陸上部のみであるが試験的に大学と提携し日曜日の指導を依頼してい

る。他の部活動では地域の指導員にお願いしている部もある。しかし、学校の名前を背負ってやっている面があり、中学校のようにはできていないのが現状である。中学校の部活動の整備が済めば高校の番になるのではないか。

意見 11：土日に部活動を指導したら月曜の仕事は午後からの勤務にするなども認めていく方向にはならないか。

⇒土日はどちらかを休みに、平日1日を休みにしているが、試合が近いとなかなかそのとおりにはいかない。

意見 12：「やりがい搾取」という言葉がある。労働局としての観点からすれば、予算として持っている以上の労働をさせてはならないのだが、現実には難しい。活動しない日などのルール化や数値化をしていかねばならない。先生方の心の病もあるので、本来休ませなければならぬ時間は、数値化して把握しなければならない。

⇒出勤と退勤の管理をおこなっており特に超過勤務時間80時間を超えた職員には校長面談をするなど、しっかり管理する方向になっている。

意見 13：昨年度から試験の採点の電子化が導入されたと聞いている。記述式の採点を持ち帰りは出来ず、学校でしなければならぬが解決できているか。

⇒採点時間は従来の3分の1になっている。記述式の採点も確認しやすくなり、点数計算もできて教員は歓迎している。

## 6 会議のまとめ

一年間にわたり貴重な意見ありがとうございました。本日頂いたご意見は、早速この2月から生かしたい。